

木材需給動向について (四国地区)

令和2年11月
林野庁

目次

1 価格の動向

(1) 直近の価格推移（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ スギ（四国地区）

ウ ヒノキ（四国地区）

(2) 製品価格の推移・動向

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国・四国地区）

(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

3 住宅着工戸数の動向

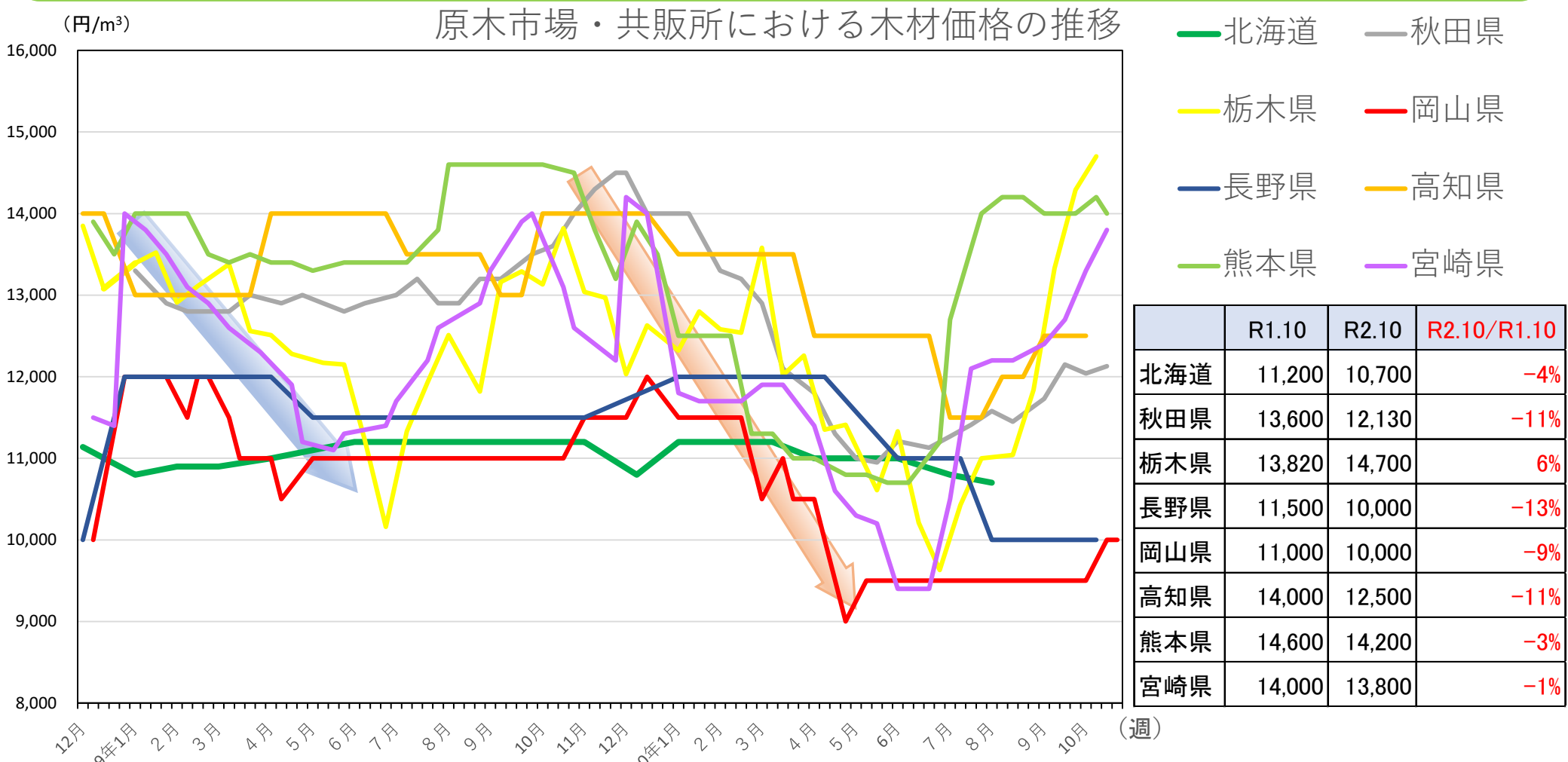
(1) 住宅着工戸数の推移

(2) 四国地区の新設住宅着工

4 主要木材の需給見通し

1 価格の動向 (1) 直近の価格推移 (原木市場・共販所)
ア スギ(全国) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

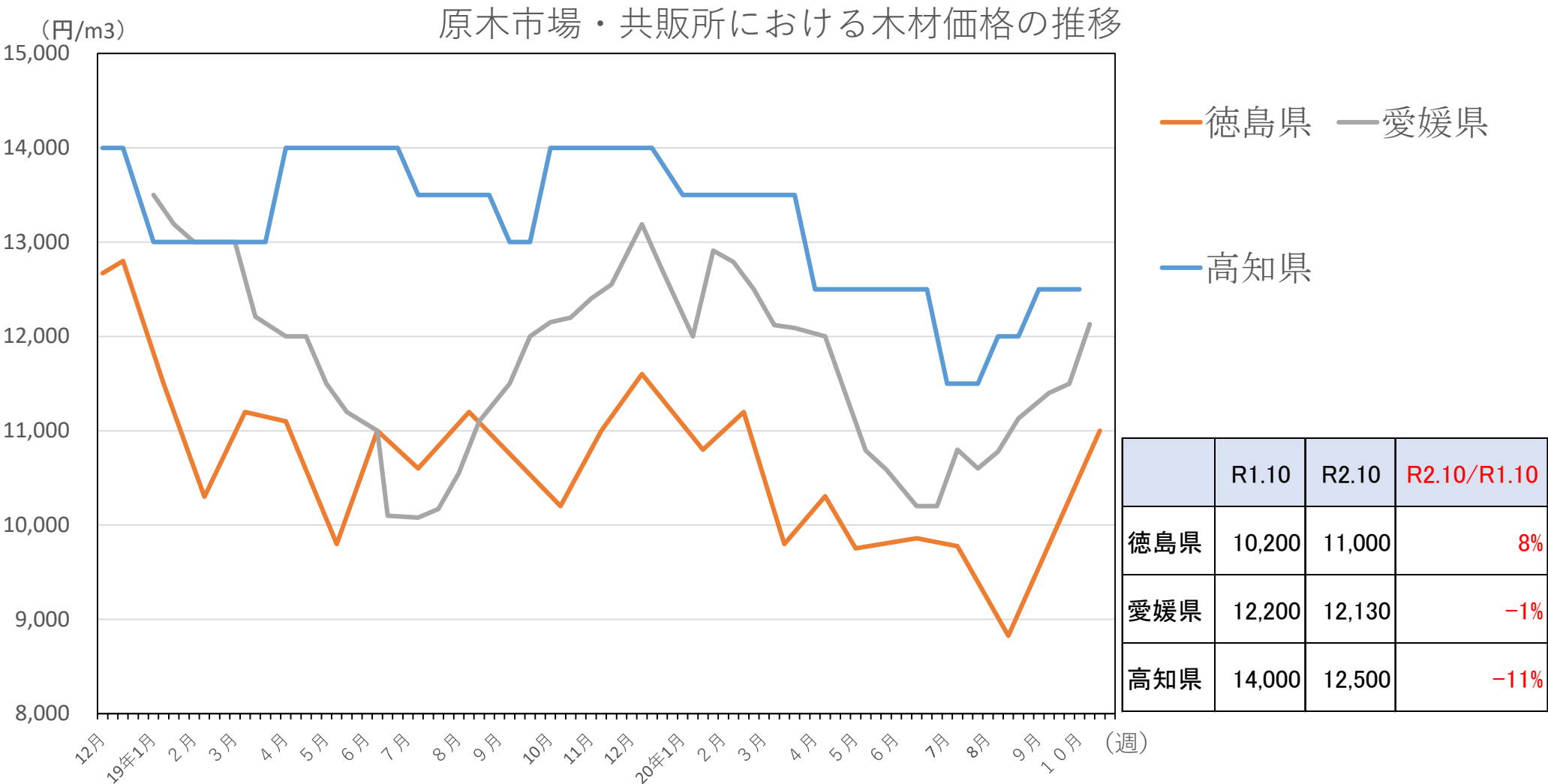
- ・ 例年12月から梅雨時期まで原木価格は下落する傾向にあるが、本年は下落幅が大きくやや急となっている。
- ・ 6月下旬から、栃木県、熊本県、宮崎県では価格の回復が見られる。
- ・ 本年10月のスギ原木価格は、対前年比13%減~6%増。



注1：北海道はカラムツ（工場着価格）。径級は24.0cm程度、長さは3.65~4mの中目原木。
注2：都道府県が選定した特定原木価格・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

イ スギ(四国地区) φ24cm程度、3.65～4.0m（平成30年12月～）

- ・ 7月以降、徳島県、愛媛県、高知県の価格が回復傾向にある。
- ・ 本年10月末のスギ原木価格は、**対前年比11%減～8%の増**。



注1：都道府県が選定した特定のスギ原木価格・共販所の価格。

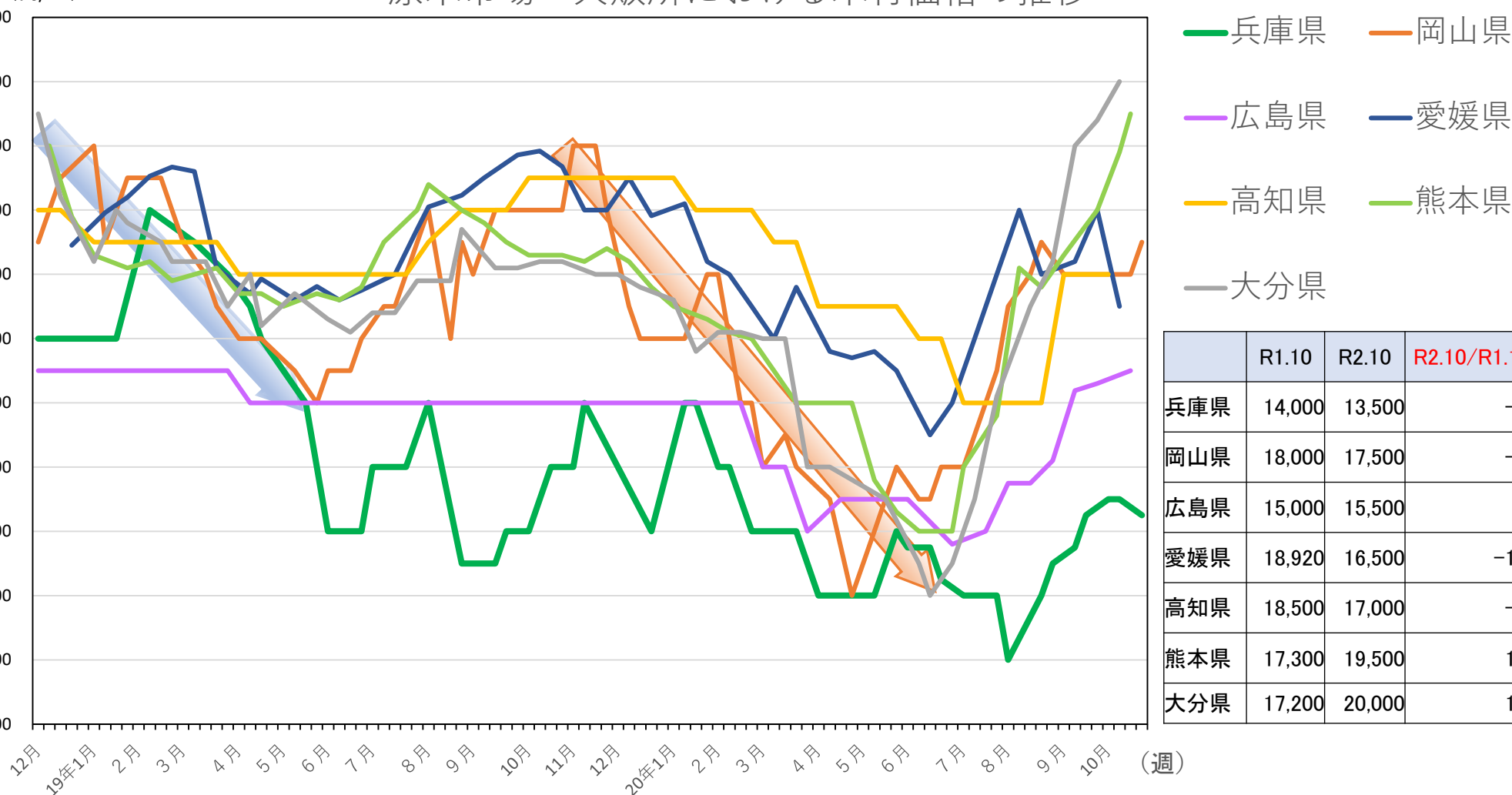
資料：林野庁木材産業課調べ

ウ ヒノキ（全国） φ24cm程度、3.65～4.0m（平成30年12月～）

- ・ ヒノキにおいてもスギと同様に例年以上の下落幅となっている
- ・ 本年10月末のヒノキ原木価格は、**対前年比13%減～16%増。**
- ・ 本年7月以降、岡山県、広島県、熊本県、大分県では価格が回復傾向。

原木市場・共販所における木材価格の推移

(円/m³)



注：都道府県が選定した特定の原木価格・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

(2) 製品価格の推移・動向

- ・製品価格は原木価格と異なり季節変動はないが、本年は価格の下落が見られる。
- ・住宅の着工動向によっては、今後も下落の傾向が続く可能性。

○ スギ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/㎡]

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
北海道 (エゾ・トド)	67,700	→67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	-
東北	58,000	58,000	58,000	58,000	→55,000	55,000	55,000	55,000
首都圏	54,000	→53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	→54,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	→60,000	→55,000	55,000	55,000	55,000
大阪	55,000	55,000	→54,000	54,000	→52,000	→50,000	50,000	50,000
広島	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000
九州	52,000	→50,000	50,000	→48,000	48,000	→47,000	→46,000	46,000

○ ヒノキ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/㎡]

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
首都圏	66,000	→65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
大阪	64,000	64,000	→63,000	63,000	→61,000	→59,000	59,000	59,000
広島	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
九州	62,000	62,000	→61,000	61,000	61,000	→60,000	60,000	60,000

※九州のみ120×120×3000mm

○ スギ集成管柱 105×105×3000mm[円/本]

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
北海道 (エゾ・トド)	2,000	2,000	→2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	-
北海道 (カラマツ)	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	-
東北	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
大阪	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750
広島	1,900	→1,880	1,880	1,880	→1,860	1,860	1,860	1,860
九州	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800

○ 針葉樹構造用合板 12×910×1820mm[円/枚]

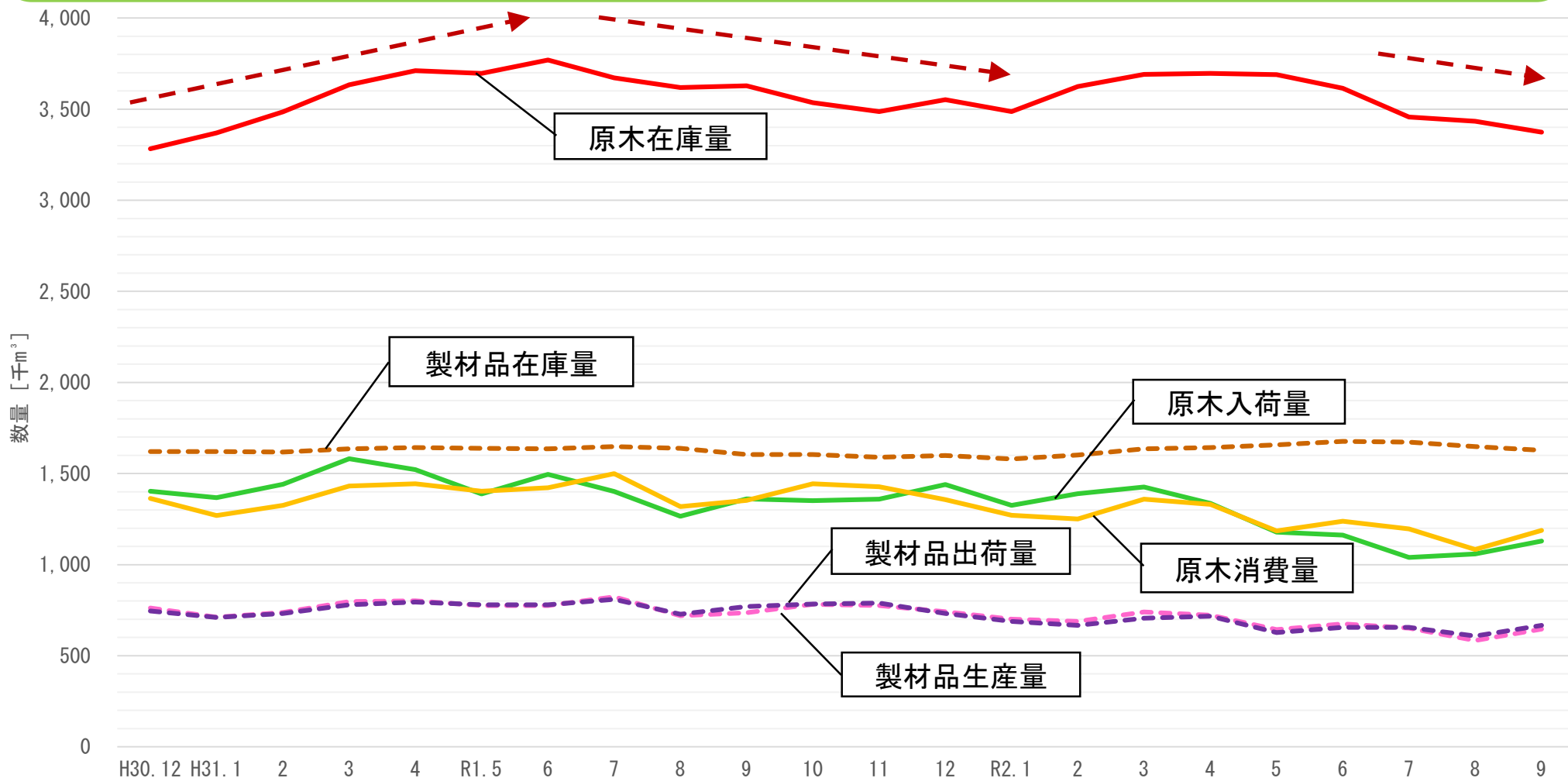
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
東北	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	→950	950	950
首都圏	1,050	→1,030	1,030	→1,010	→980	→950	950	→940
名古屋	1,050	→1,020	1,020	→1,000	→960	→930	930	930
大阪	1,050	→1,010	→1,000	→990	→950	→920	→900	900
広島	1,070	→1,050	→1,030	1,030	→1,000	→950	→930	930
九州	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

2 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

「製材統計」によると、

- ・ **製材品の生産量、出荷量**は年間を通じて大きな変化なく、横ばい傾向。（グラフの破線部分）。
- ・ **原木の入荷量、消費量**は2、3ヶ月単位で、在庫量は半年単位で増減を繰り返す傾向。
- ・ 現在、**原木の入荷量・消費量**は若干の増加傾向、**在庫量**は減少に移行しつつある。

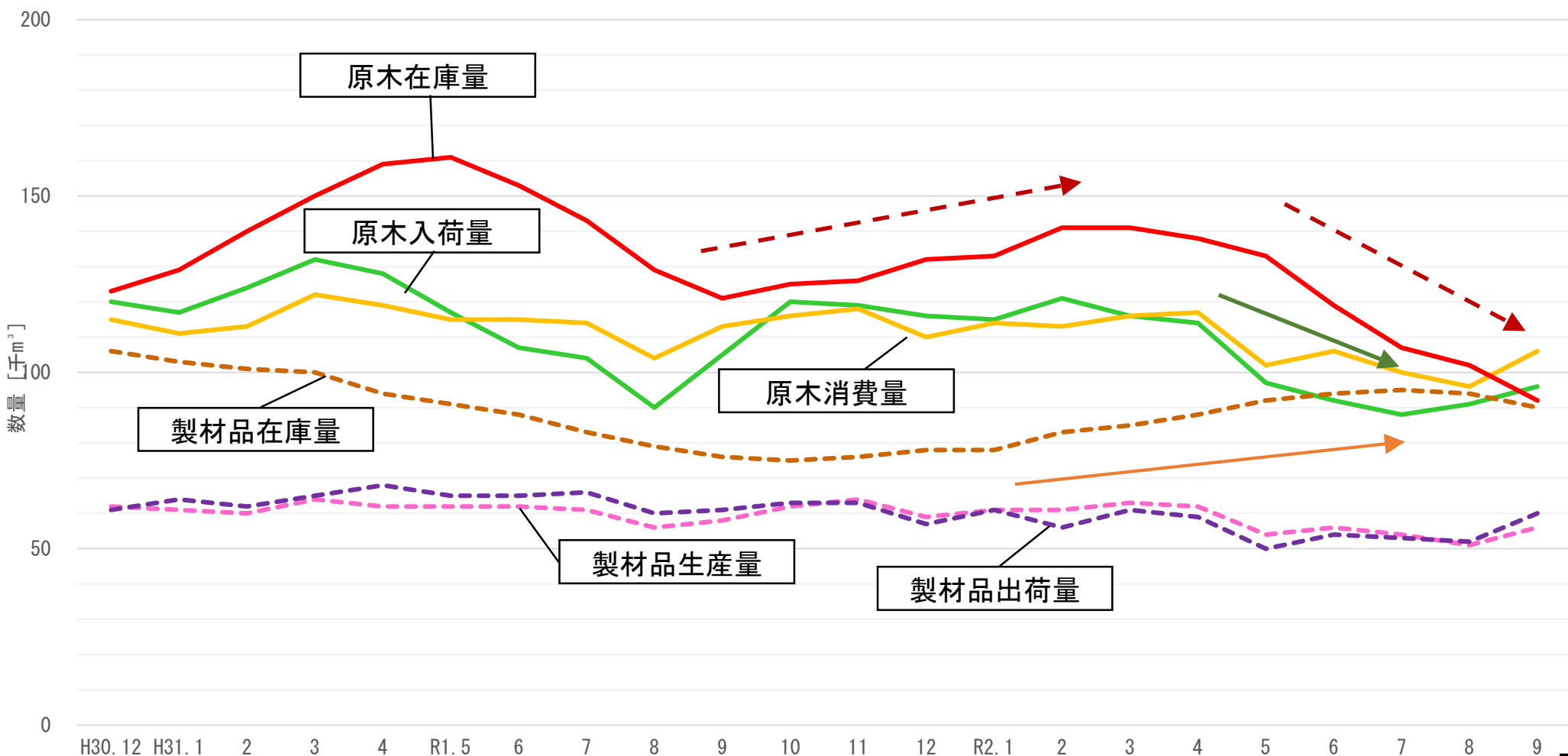


資料：農林水産省「製材統計」

(1) 製材 (四国地区)

「製材統計」によると、四国地区では、

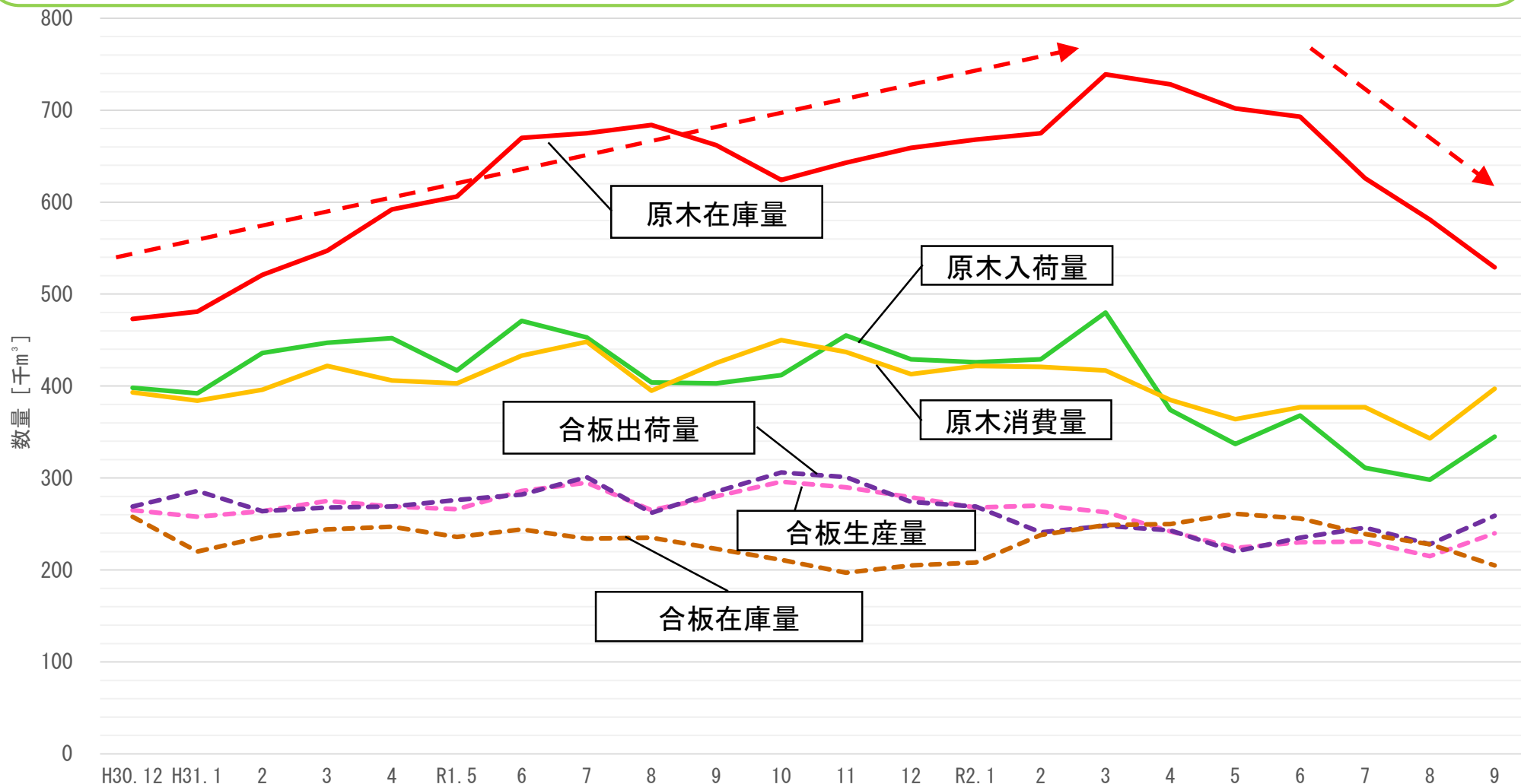
- ・ 製材品の生産量、出荷量は5月に減少してから横ばい傾向。製品在庫量は増加傾向。
- ・ 原木の入荷量・消費量は季節変動が見られるものの、概ね横ばい傾向で推移している。
- ・ 在庫量は、昨年よりも早期に減少傾向へ変化している。



(2) 合板（全国）

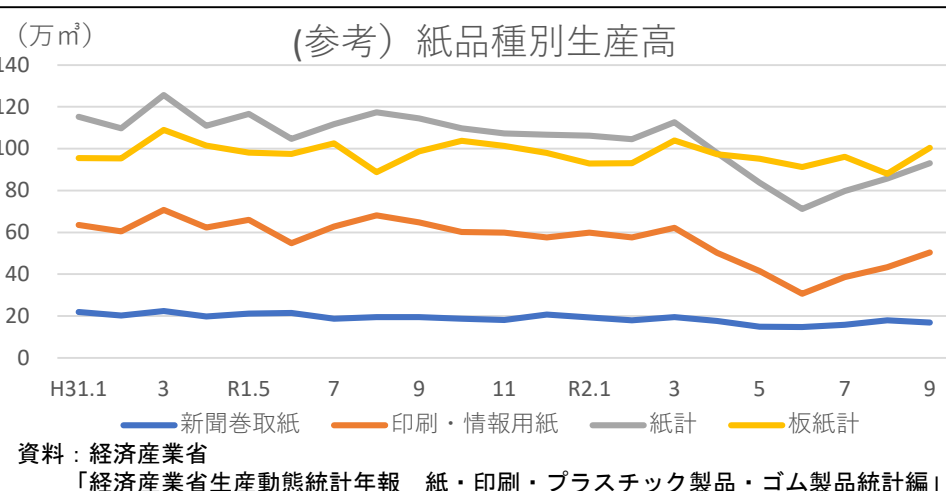
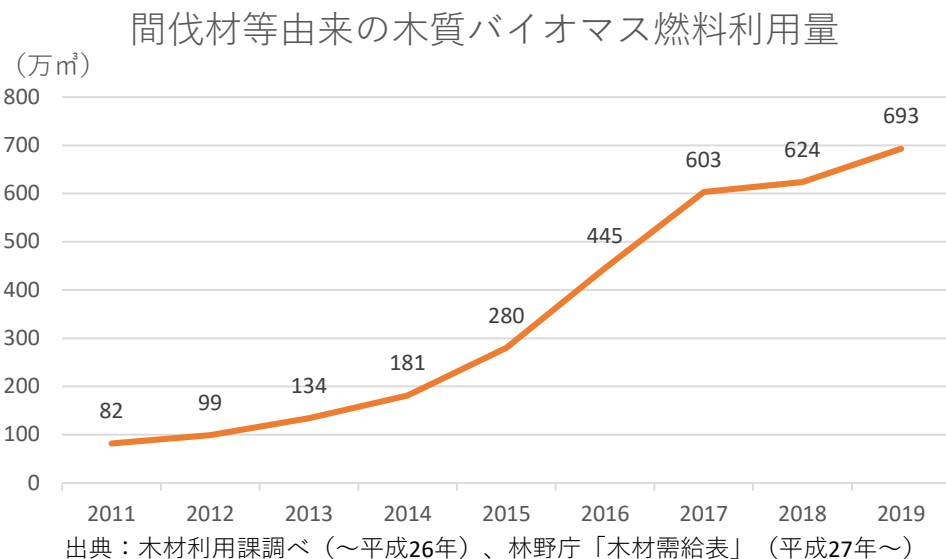
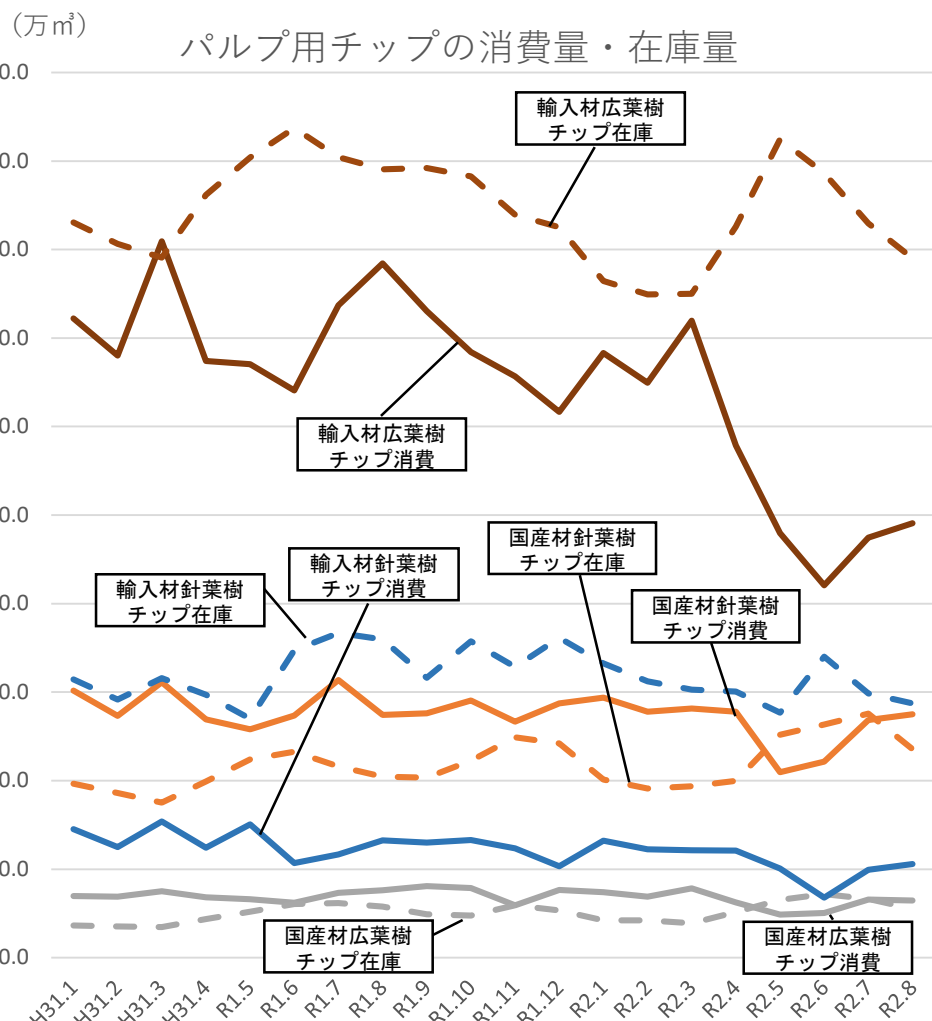
「合板統計」によると、

- ・合板の生産量、出荷量は昨年10月以降、減少傾向にあったが、横ばいから増加へ移行。
製品在庫量は増加傾向にあったが、5月以降、減少傾向（グラフの破線部分）。
- ・原木の入荷量、消費量は、数ヶ月単位で増減を繰り返している。4月以降の入荷量は急激に減少。9月は、増加。
- ・原木の在庫量は増減を繰り返しつつ長期的に増加していたが、4月以降再び減少傾向が続いている。



(3) チップ(全国)

- ・ **パルプ用チップの消費**について、**輸入広葉樹チップ**は今年4月から**激減**。**国産針葉樹チップ**も今年5月に大きく**減少**。
- ・ **パルプ用チップの消費減少**については、**印刷・情報用紙の生産減が原因**と考えられる。
- ・ **木質バイオマス発電向け燃料**については、**増加傾向が続いている**。

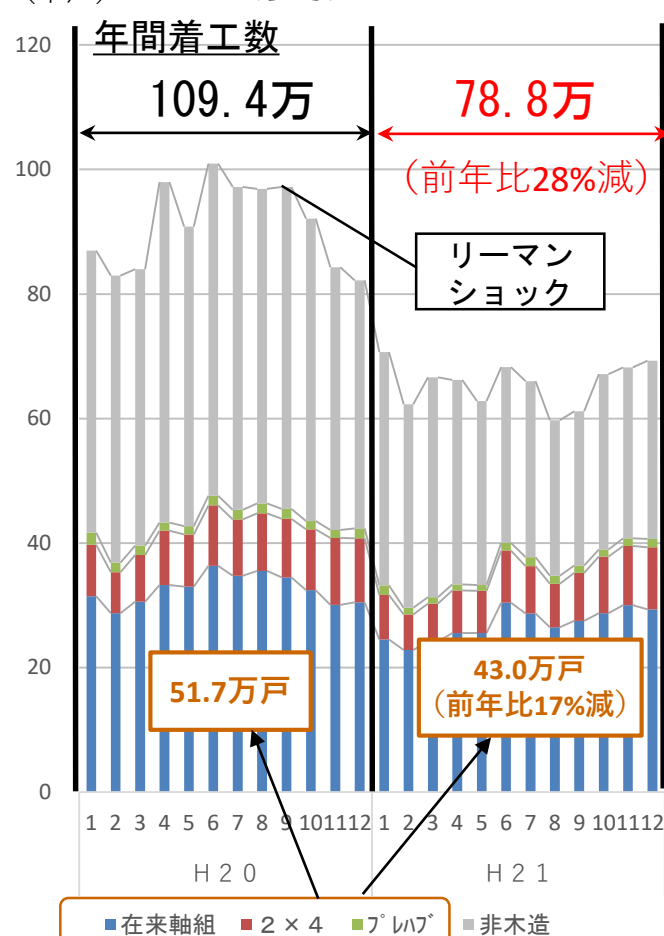


3 住宅着工戸数の動向

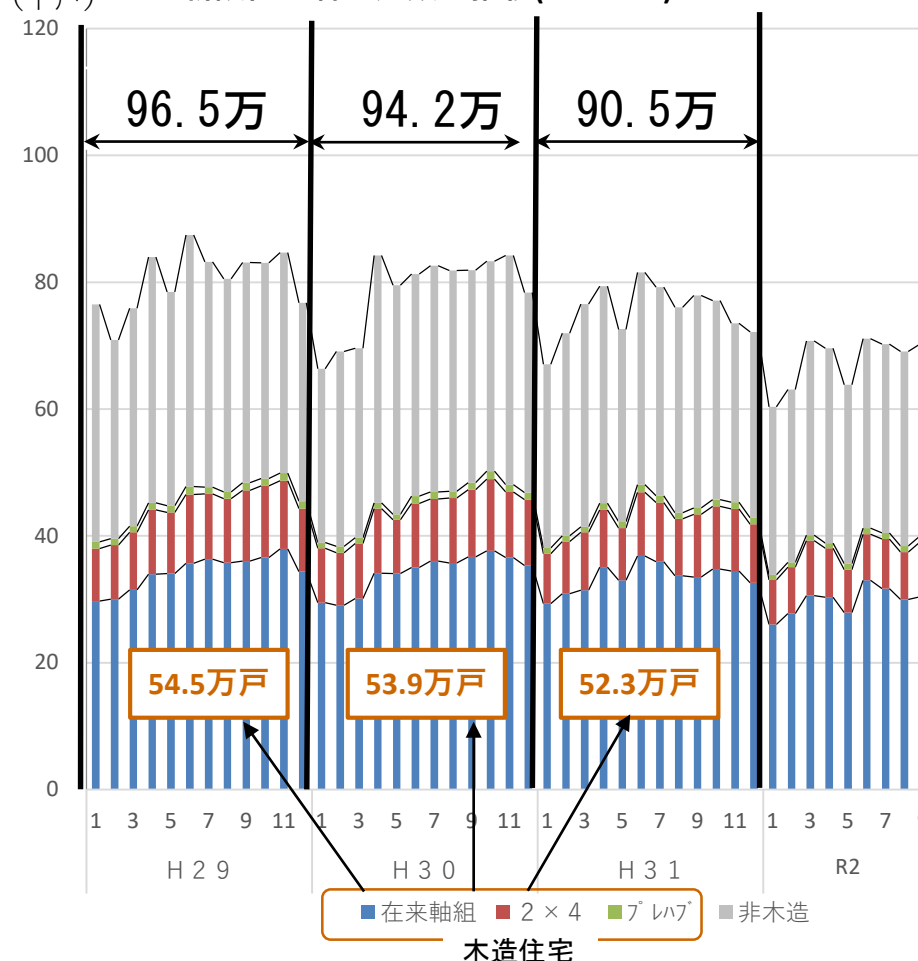
(1) 住宅着工戸数の推移 (平成20年1月～令和2年9月)

- ・ 昨年度の新設住宅着工戸数は、90.5万戸。そのうち、**木造住宅は52.3万戸 (57.8%)**。
- ・ **令和2年度1～9月**の木造住宅着工戸数は、**34.4万戸 (前年比11.6%減)**。
- ・ 緊急事態宣言の発令により、**大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少した影響が懸念**されるが、まだ着工戸数に目立った落ち込みは見られない状況。

(千戸) (参考) H20～21



(千戸) 新設住宅着工戸数の推移(H29～R2)



令和2年1～9月期
住宅着工戸数

総計 60.8万戸
(前年比10.9%減)

非木造 26.4万戸
(前年比9.9%減)

木質プレハブ 0.8万戸
(前年比11.2%減)

2 × 4 6.9万戸
(前年比15.0%減)

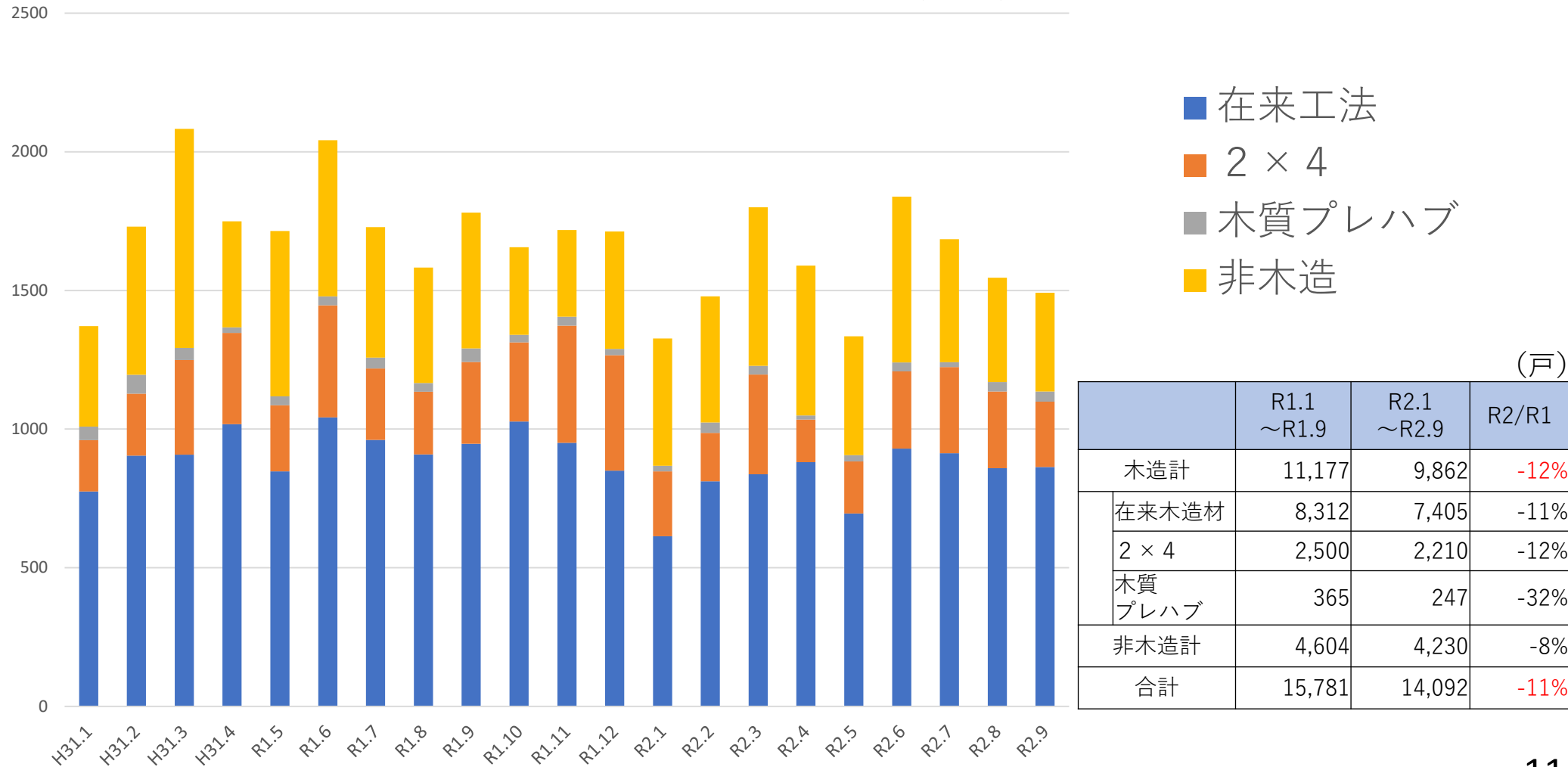
在来木造 26.8万戸
(前年比10.7%減)

木造34.4万戸
(前年比11.6%減)

(2) 四国地区の新設住宅着工（平成31年1月～令和2年9月）

- ・ 四国地区の**新設住宅着工戸数**について、今年1～9月期の昨年同期の実績を比較すると、全体として**11%減**となっており、**非木造に比べ木造（12%減）の減少幅がやや大きくなっている。**

新設住宅着工戸数（四国）



4 主要木材の需給見通し（令和元年第2四半期～令和3年第1四半期）

林野庁が主催する木材需給会議（9月28日開催）では、今後の需給見通しを以下のとおり見通している。

- ・ 国産製材用丸太は、第2四半期に前年同期比85.0%に減少したが、第3四半期以降増加に転じる見込み。
- ・ 国産合板用丸太は、第2四半期に前年同期比81.8%に減少したが、第4四半期以降に反転する見通し。
- ・ 合板の国内製造は、第2四半期に前年同期比84.8%に減少したが、第4四半期以降に反転する見通し。

（下段は前年同期比）（カッコ内は前回までの見込み）（単位：千m3）

年	四半期	区分	丸太			輸入 製材品	合板		構造用集成材	
			国産材		輸入		国内製造	輸入	国内製造	輸入
			製材用	合板用	計	計				
令和元年 (平成31年)	第 2 (4－6 月)	実績	3, 366	1, 256	827	1, 567	821	614	475	210
			103. 1%	108. 4%	104. 1%	94. 8%	100. 8%	79. 2%	102. 2%	92. 1%
	第 3 (7－9 月)	実績	3, 046	1, 190	658	1, 501	841	589	490	218
			103. 9%	111. 5%	83. 7%	99. 8%	104. 7%	89. 2%	108. 9%	110. 6%
	第 4 (10－12 月)	実績	3, 324	1, 212	715	1, 352	865	648	505	214
			103. 9%	111. 5%	83. 7%	99. 8%	104. 7%	89. 2%	108. 9%	110. 6%
	年計		13, 108	4, 839	3, 026	5, 795	3, 324	2, 535	1, 915	839
			103. 3%	108. 1%	94. 0%	94. 4%	103. 3%	86. 7%	105. 5%	103. 2%
令和2年	第 1 (1－3 月)	実績	3, 222	1, 217	649	1, 261	801	633	460	212
			95. 6%	103. 1%	78. 6%	91. 7%	100. 5%	92. 5%	103. 4%	107. 6%
	第 2 (4－6 月)	実績	2, 861	1, 027	555	1, 461	696	616	465	256
			85. 0%(77. 2%)	81. 8%(87. 6%)	67. 1%(74. 8%)	93. 3%(83. 9%)	84. 8%(88. 9%)	100. 4%(99. 7%)	97. 9%(97. 9%)	121. 9%(104. 8%)
	第 3 (7－9 月)	見込み	2, 900	960	562	1, 328	680	486	410	280
			95. 2%	80. 7%	85. 4%	88. 5%	80. 9%	82. 5%	83. 7%	128. 5%
	第 4 (10－12 月)	見通し	2, 900	980	476	1, 230	700	518	365	220
			87. 2%	80. 9%	66. 6%	91. 0%	80. 9%	79. 9%	72. 3%	102. 8%
	年計		11, 883	4, 184	2, 242	5, 280	2, 877	2, 253	1, 700	968
			90. 7%	86. 5%	74. 1%	91. 1%	86. 5%	88. 9%	88. 8%	115. 4%
令和3年	第 1 (1－3 月)	見通し	3, 000	1, 000	545	1, 270	700	527	365	250
			93. 1%	82. 2%	84. 0%	100. 7%	87. 4%	83. 3%	79. 3%	117. 9%